

第29回 まつやま中学生海外派遣レポート

姉妹・友好都市訪問&異文化体験

(財)松山国際交流協会
まつやま国際交流センター 発行
2011年10月

派遣事業全体スケジュール

6月19日(日)	派遣説明会 事前研修会①
6月26日(日)	事前研修会②
7月10日(日)	結団式・壮行会 事前研修会③
7月21日(木)	ドイツ班出発
7月24日(日)	韓国班出発
7月26日(火)	アメリカ班出発
7月29日(金)	韓国班帰国
7月31日(日)	ドイツ班帰国
8月2日(火)~7日(日)	平澤市中学生受入(韓国班)
8月5日(金)	アメリカ班帰国
8月中旬	事後研修
8月20日(土)	報告会

派遣事業概要

(財)松山国際交流協会では、毎年夏休み中に「まつやま中学生海外派遣」を実施しています。この派遣は、松山市の姉妹・友好都市での交流や体験学習、ホームステイなど、文化や言葉の違う人達との交流を通して、いろいろな価値観があることを学び、広い視野を持って物事を見ることができ、国際性豊かな人材の育成を目的としています。今年度からは新たな試みとして、昨年度に「中学生チャレンジプロジェクト」へ登録し、一年を通じて国際交流活動に参加した中学生を対象に派遣生の募集を行いました。その中から選考された46名が、三日間の事前研修の後、アメリカ、ドイツ、韓国へそれぞれ派遣されました。この派遣を通して学んだこと、心に残ったことなどをレポートにまとめました。

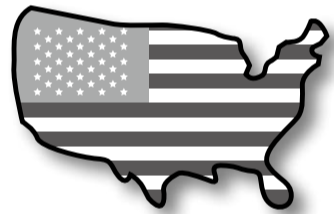
*「中学生チャレンジプロジェクト」の詳細は8ページをご覧ください。



ドイツ班

GERMANY

ドイツ班は7月21日から31日までの11日間、フライブルクとオーストリアのインスブルックなどを訪問しました。フライブルクではドイツサッカー1部リーグの「SCフライブルク」のスタジアム見学やエコ・ステーションでの環境学習などを行い、インスブルックでは旧市街で英語研修、農家体験などを行いました。



アメリカ班

USA

アメリカ班は7月26日から8月5日の11日間、サクラメント・サンフランシスコを訪問。サクラメントでは年に一度開催されるカリフォルニア・ステート・フェアを体験。また、サンフランシスコでは農業体験や環境保護ボランティアも行いました。



韓国班受入

JAPAN

8月2日から7日まで、今度は平澤からの中学生が松山にやってきました。韓国班のメンバーはそれぞれ、派遣時に交流したパートナーを受け入れました。日本の文化体験や中島での海洋・自然体験など、松山での交流を楽しみました。



韓国班

KOREA

韓国班は7月24日から29日まで平澤を訪問し、「韓中日青少年国際交流キャンプ」に参加。中国・寧波(ニンポー)や秋田県の子どもたちとともに伝統民俗遊びやタイルペイントなどの文化体験、料理作りなどを行いました。





もじりの家族

松山市立桑原中学校 遠藤 里奈
ホストファミリーの方々とお別れの時、私は自然と涙があふれてきました。ホストファミリーの方々は本当に仲良くさせてくださいました。シヨッピンモールや遊園地などいろいろなところに連れて行ってくださいました。



私がホームステイで一番楽しかったのは、農業体験です。その家では馬を15頭、ヤギを2頭、犬を3匹、猫を4匹飼っていました。農業体験は馬とヤギに餌をあげました。私は動物が好きなので、幸せでした。もう一つ楽しかったことがあります。それは、遊園地です。「DISCOVERY KINGDOM」という遊園地に行きました。アメリカのジェットコースターに乗って「アメリカ人の心臓がとっついてくるのだろうか」と思いました。私は怖すぎて悲鳴も上げられずじまつただけです。私は怖すぎて悲鳴も上げられずじまつただけです。

一生の宝物「ホームステイ」

松山市立立久谷中学校 小倉 優里
私が一番楽しかったのは、やはり「ホームステイ」です。ホームステイで3日間お世話になったのはMr. Glen CarsonとMrs. Yuko Carsonです。Carsonさんの家には、3匹の猫がいました。私は猫が苦手だったので人がなついていたので、好きになりました。Yukoさんは絵をかく芸術家でもあり、たぐさんの猫の絵を描いています。また、お



▲アメリカの海

私がアメリカに行くと、心から感謝します。私がアメリカに行くと、心から感謝します。私がアメリカに行くと、心から感謝します。



▲お世話になったRheeさん夫妻

家族も一緒に集まって、BBQをしたり、家のプールで泳いだり、

アメリカの思い出

松山市立内宮中学校 木谷村 穂高

今、僕はホームステイ先のお父さんのラミレスに選んでもらったバスケットシューズを履き、部活動に励んでいる。そのバスケットシューズを見るたびに、ロザリオファミリーと過ごしたあの楽しかった3日間を思い出します。特に心に残っていることは、バスケットシューズを履いた僕のために、お父さんがスポーツ店を5件も回ってくれたことだ。5件目にして、お父さんが「[Bridges]」と「[Good]」と言いつつ、このバスケットシューズを手渡してくれた。軽く履き心地もよく、足にも合ったので、僕はすごく気に入った。



▲持参した浴衣を着てGLENさんとYUKOさんと一緒に写真を撮りました。

一生の宝物

松山市立城西中学校 小山 賛美

サンフランシスコに着いてまず私が感じたことは、「寒い!!」ということでした。でもそれと同時に、私は期待で胸を弾ませていました。私はアメリカで、たくさんの一生の宝物を手に入れました。それを大きく3つに分けて、紹介したいと思います。

1つ目は「出会い」です。一緒にアメリカへ行った友達や、ホストファミリーとの出会い。特に、ホストマザーのかずよさんにはとてもよくして頂き、帰国した次の日に手紙を送りました。これから交流していきたいなと思います。

2つ目は「夢」です。私はアメリカに行くまで飛行機に乗ったこともなく、東京やアメリカは別世界の感覚でした。でも、実際に飛行機に乗ると、身近なイメージになりました。今回は、自分の伝えたい事をあまり言葉に出来なかつたけど、将来、英語でどんな事でも伝えられるようになって、もう一度、アメリカへ行きたいです。

松山市立内宮中学校 辻岡 幸一郎
僕はアメリカに行きたくて感じた事が三つあります。一つ目は、アメリカに住んでいる人は優しいということです。派遣生である僕達に、とにかく気を配ってくれます。分からぬ事があっても親切に教えてくれて、安心して過ごす事が出来ました。中でも一番楽しかったのは、ホストファミリーです。僕が家に電話をかけた時、時差もあって夜遅くまでかかりました。「Sorry」と謝ると「Don't worry」と笑顔で言ってく

新しく生まれた大切な家族

済美平成中等教育学校 田中 花奈実

初めての海外。アメリカの国・人・食べ物・建物・催し物の規模など、その大きさに驚き、11日間という日程の全てが刺激的でした。私は、「ホームステイ」が楽しみでした。「ブルーがあるから水を持ってきて」と、「テレビを見るキューバーティー」を計画中」と、テレビで見るアメリカを感じたいのホムステイ先の事前情報があったからです。韓国系アメリカ人の「ユル」お父さんとロシア人の「ジョーン」お母さんが受け入れて下さいました。そして、毎日、孫で4歳になる双子の兄妹が遊びに来てくれました。プールは広くて、BBQは子供たち家族が集まって、心からの温かいおしゃべりをして頂きました。お風呂を手伝ったり、近くの大きなスーパーで買い物したり、アメリカの日常をワクワク・ドキドキしながら体験することができました。



▲お世話になったRheeさん夫妻

品棚にぎっしり積まれた缶詰を見て、日本との違いに驚き、大はしゃぎをしました。とにかく種類も量が多すぎたビジュアルに仰天!

すつききな出会い

愛媛大学教育学部附属中学校 竹本 海帆

長かったようであつたという間違った11日間。この11日間は、私にとってかけがえのない日々でした。研修の中で一番心に残っているのは、ホムステイです。私は、英語があまり得意ではないのでドキドキと不安でいっぱいでしたが、いざとなればそれがワクワクと楽しみに変わっていたような気がします。Welcome Partyで初めて出会ったRheeさん夫妻、奥さんと英語での会話、私はいつもハチャメチャな英語だったと思います。(もともと、英語を勉強してくるんだと少し後悔...)しかし、話を通じたときはものすごくうれしかったです。



▲ウェザービーのアイス

のようにならなりました。帰

アメリカの思い出

松山市立拓南中学校 中川 雄登

僕は、今回の海外派遣でサクラメントとサンフランシスコという都市を訪れました。その二つの都市での思い出について紹介したいと思います。まずサクラメントです。僕のサクラメントでの一番の思い出は、やっぱりホームステイです。ホストファミリーの方と過ごした3日間はとても貴重なものでした。ホームステイ中は、いろいろな所へ連れていかれました。ボウリング、プール、シヨッピンセンターなどに行きました。しかし、一番印象に残っているのは「[Bridges]」というジェリービーンスの工場に行ったことです。ジェリービーンスは食べたことがなかったのですが、食べてみるとおいしかったです。この写真もその工場で撮ったものです。次にサンフランシスコです。サンフランシスコで一番の思い出は、メジャーリーグ観戦です。ジャイアンツVSダイヤモンドバックスでした。メジャーリーグ連のプレーに魅了されてしまいました。試合は、ジャイアンツが8-1で勝ち、とてもいい試合でした。

アメリカでの体験

愛媛大学教育学部附属中学校 中尾 有沙



国際交流や、一緒に派遣された仲間を通して、「協力し合う」「助け合う」「理解し合う」ことの大切さを肌で感じる事ができました。この経験を生かして、これからの生活に繋げていきます。本当にありがとうございました。

初日は、家の庭と猫三匹の紹介をしていただきました。庭によく鹿やタヌキがやってくるんだとグレンさんに言われたときは、私の家では信じられないなと思いました。二日目は、午前中に近所の国立公園へ行きました。そこでは、野生の七面鳥や鹿などを見ました。午後からは娘さんであるマリさんのお宅へ行き、ビーチパイとクッキーを一緒に作りました。私は桃の皮をむく係だったのですが、自分たちで作ったお菓子は格別でした。三日目は、クロッカーアート美術館へ行きました。様々な年代・国の作品が展示されており、とてもおもしろかったです。それから、アイスを食べに「ウェザービー」というお店に行きました。このお店のアイスは、まるで山のように盛りだくさんで、半分以上は食べきれず、お腹が膨らんでしまいました。帰

松山市立東中学校 野田 智幹
僕は今回の派遣でたくさんの経験ができました。その中で一番印象的だったのは、やはりホームステイの初日は、まだまだ緊張して自分から話しかけることができませんでした。そんな時、一番上のLindsayが優しく声をかけてくれました。話しているうちにすべてが理解できなくなつたけれど、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。二日目は、みんなでBowlingやShoppingをして、夕方からはLindsayのバスケットボールチームの仲間たちとプールでPartyをしました。その頃にはずいぶん打ち解けて、ジェスチャーを交えながら、片言ながらも話せるようになりました。三日目は、Jelly Belly Factoryへ連れていかれました。アメリカらしいカラフルな工場にとても興奮しました。

「I can do it!」

2

楽しい時間はあっという間に過ぎ、別れの時がきてしまいました。何もできなかった僕に、優しくしてくれた Masaba Family に感謝しつつ、またいつか再会できることを願って、そして日本に帰ってからメールで交流を続けることを約束しました。



次に思い深い出来事は、メジャーリーグ観戦です。ジャイアンツとマイアミドジャークスの試合を写真に納めようと、マイアミの近くに入ったところ、偶然にもファールボールが飛んできました。手を伸ばしたものの取ることができませんでした。すると隣にいた人が「この子にあげなよ」と、アピールしてくれ、ボールをゲットすることができました。僕はとてもうれしく「Thank You!」と言った。ハイタッチをしてくれました。近くにいた人もハイタッチしてくれました。気持ちが伝わった瞬間、最高に嬉しかったです。また、アメリカ人の friendly さに感動しました。

11日間の宝物

済美平成中等教育学校 延川 耶帆

9時間のフライトは楽しみにしていた分、長く感じられました。空港を出て乾燥した冷たい空気を感じた瞬間、サンフランシスコに来たという実感が湧きました。何もかも新鮮で、窓の外を見ているだけで楽しかったです。

ホームステイはこの研修のなかでも特に心に残っています。私のホストファミリーは7人の大家族で、とてもにぎやかでした。Matte という女の子と Andrew という男の子もいて、いろいろなお話をしながら、仲良くなりました。ショッピングやプールも楽しかったけれど、地元の人たちが行くようなヨーグルのショップや公園に行けたことが嬉しかったです。ヨーグルソフトはとっておいて、食べるのが遅い私でもすぐに食べることができました。朝食に出たワッフルには、イチゴや生クリームがたっぷりついていて最初は驚いたけれど、これもおいしくおかわりしてしまいました。他にも天ぷら寿司や味の濃いビーフジャッキーなど、アメリカの食べ物、日本から見るとびっくりするものも多かったけれど、今となってはすべて私の大好きなものの一つです。ホームステイは英語での会話で、自分の思っていることが伝わるかどうか不安でした。けれどホストファミリーが熱心に私の話を聞いてくれたおかげで、私も頑張ってジェスチャーや簡単な言葉を使って伝えることができました。ホームステイでしか学べないようなことがいくつもありました。すべてが宝物です。私はこの研修を通して、多くのことを学びました。



もつと英語を話せるようになって、またこの訪れたいです。この経験はこれから先、私の財産になっていくと思います。私を成長させてくれた Matte、Andrew、ホストファミリー、そして両親や先生方に感謝します。

★大切な経験★

済美平成中等教育学校 平松 萌

私が、今回のアメリカへの派遣で一番心に残っているのは、ホームステイです。私が一緒に過ごしたホストファミリーはみんなとても優しく、温かく私を迎えてくれました。今回のホームステイは私の中で大切な経験になったと思います。

ショッピングへ出かけたり、プールへ行ったりしました。私たちが訪れたショッピングモールはとて大きく、その大きさに驚きました。買い物や英語するのも良い経験になったと思います。他にも、美味しいハンバーガー屋さんや友達に連れて行ってくれた、アメリカのスイーツを食べさせてくれたりしました。また、そのホストファミリーの家では、特別な日にチョコレートケーキを食べるようなのですが、その日は「Is a special day」と言っていて、大きなチョコレートケーキを用意してくれました。その言葉を聞いた時、私はとても嬉しく幸せな気持ちでした。

私のホストファミリーは、日本語がほとんど話せませんでした。一緒に生活する中で私は、日本で英語を話すとは全く違う、と感じました。発音がネイティブなせいか、聞き取りにくかったです。今回、このホストファミリーと過ごしたことで、もつと英語力を上げた！と、現地で話すからと英語を話せるようになりたい！と思うようになりました。将来、アメリカをもう一度訪れて、その時には完璧な英語を話せるようになっていたいです。温かく迎えてくれたホストファミリーに感謝しています。



私は、今回のアメリカ派遣で沢山の思い出ができました。まずサンフランシスコに到着して驚いたのは、夏にもかかわらずホッカイロが欲しくなるほど寒かった事です。最初に行ったビア39は海が見えるきれいな場所です。たくさんのお店が並んでいました。そこで食べたクラムチャウダーとシーフードスパゲティはクリミーでもおいしかったです。あと、メジャーリーグ観戦も最高でした。日本よりも応援がにぎやかで、応援している側のチームの選手が打つと観客が総立ちになり、「ワァー！」という声援が返り響きわたりました。気が付くと自然に僕も一緒に叫んでいました。アメリカ流の応援をしていました。とても楽しかったです。サクラメントは暑い町でしたが、日本のようなジットリとした湿度がなかったので過ごし易かったです。サクラメントでの思い出は、もちろんホームス

アメリカ派遣の思い出

松山市立東中学校 葉師寺 快和

僕は、今回のアメリカ派遣で沢山の思い出ができました。まずサンフランシスコに到着して驚いたのは、夏にもかかわらずホッカイロが欲しくなるほど寒かった事です。最初に行ったビア39は海が見えるきれいな場所です。たくさんのお店が並んでいました。そこで食べたクラムチャウダーとシーフードスパゲティはクリミーでもおいしかったです。あと、メジャーリーグ観戦も最高でした。日本よりも応援がにぎやかで、応援している側のチームの選手が打つと観客が総立ちになり、「ワァー！」という声援が返り響きわたりました。気が付くと自然に僕も一緒に叫んでいました。アメリカ流の応援をしていました。とても楽しかったです。サクラメントは暑い町でしたが、日本のようなジットリとした湿度がなかったので過ごし易かったです。サクラメントでの思い出は、もちろんホームス

アメリカ派遣体験記

済美平成中等教育学校 山口 圭太

着いた瞬間、全てが違うと体を感じ取った。アメリカに行くまでは「日本とは言語や食文化が違うだけだ」と決めていた。出発の前夜もそんな軽い気持ちでいたから、ぐっすり眠ってしまっていた。着いてまず思ったのは「匂い」が違うということだった。その国の匂いは、その食文化や生活様式、街の作りなどから来たものだと思う。つまり、日本とは何もかも違っていたということである。正直驚いた。アメリカについていたらもつとわくわくすると思っていたのに、その時、自分の中では不安がまぎっていた。

部屋の中に土足で入ることをはじめ、最初は大きな文化の違いに戸惑った。ホームステイの家では、最初靴を脱いで笑われてしまった。しかし慣れてみると、とても快適なものだった。なんだか「自由の国」と呼ばれる理由がわかった気がした。

一番大きな違いは、人間であった。この旅で一番多く使った言葉は、thank you と excuse me。これにも驚いた。おそらく一日で50回は使ったと思う。しかし、自分が意識して使っていたのではない。現地の人に馴染もうと、真似をしていたら自然とそうなったのだ。本当にいい人ばかりだった。人とすれ違えば必ず笑顔で挨拶してくれたり、日本人ですか？と話しかけてくれる人までいた。



▲サンフランシスコを一望できる丘の頂上にて。

外国と日本の違い

松山市立拓南中学校 山本 和奏

私はこの松山中学生海外派遣研修が生まれて初めての海外でした。初めての海外で一番楽しかったことはやはりホームステイです。言葉も通じず、自分の発音している単語や英文も相手に通じているかわからない状況になってしまっているのではないかと、ホームステイ前日まで思っていました。でも、実際会ってみると言葉などは必要無いということがわかりました。

Welcome party のときはおばあちゃんとお母さん、マザーのシェリルさんと9歳のアリスちゃんとお兄ちゃん、12歳のジャスティン君が来てくれました。初めて会ったとき、アリスちゃんがいきなり抱きついてきたことが印象的で、まだはつきり覚えて

最高の思い出！アメリカ！！

松山市立道後中学校 芳野 陽香

とうとう、アメリカにやってきました。サンフランシスコは、思っていた以上の寒さでびっくりしましたが、今日からアメリカ派遣のスタートです。11日間の研修で心に残っていることは、ホームステイです。

ウェルカムパーティーの時は、ホストファミリーの人は、用事があって帰ってしまい、あまり話すことができませんでした。でも「金曜日に迎えに行く」と言われて、早く金曜日になってほしいと思いました。そして、とうとう楽しみにしていた金曜日。おばあちゃん達が迎えに来てくれて、家に向かいました。家は、10部屋もある大きな家でびっくりしました。さすが、アメリカかと思いました。ファミリーは、おばあちゃん、お父さん、お母さん、12歳のJustin、9歳の Allison の5人家族です。

私は、あまり英語を話すことが得意ではないので、3日間大丈夫かな？と不安でしたが、みんな、ゆっくり分りやすく話してくれて、コミュニケーションがとれました。ホストファミリーには、ショッピング、Jelly、Beef、Eggs、や、いとこの家でのパーティーなどに連れて行ってもらいました。また、Justin と Allison に日本語を教えたり、お土産で持って行った、だるまおとしで遊んだり、とても盛り上がりました。楽しかった3日間は、あっという間に過ぎてしまいました。お別れの時は、みんな何回もハグをして、別れを惜しまました。

ファミリーとはたくさん会話が出来たけど、もつとスムーズに会話出来るレベルになりたいと、今回のアメリカ派遣を通して強く思いました。また、日本では体験が出来ない事をたくさん経験でき、本当に楽しかったです。アメリカ派遣に参加させてもらったことに感謝します。ありがとうございました。



ファミリーとはたくさん会話が出来たけど、もつとスムーズに会話出来るレベルになりたいと、今回のアメリカ派遣を通して強く思いました。また、日本では体験が出来ない事をたくさん経験でき、本当に楽しかったです。アメリカ派遣に参加させてもらったことに感謝します。ありがとうございました。

アメリカ班 引率の先生方

「Thank you」の素晴らしい

団長 松山市立北中学校 校長 白濁 康隆

まつやま中学生海外派遣「アメリカ班」は7月26日から11日間の活動を行った。アメリカという国は、土地は広大、体格も大きく、食べ物も大きい。人種も様々、服装も様々、小さな事はあまり気にしない。全てがおおらかという感じであった。しかし、街や店内で人の前を横切るときは「sorry」、そして道を譲られたら「Thank you」。エレベーターに乗るときは女性に「please」、行く階の番号を押さずに自然に出てくるアメリカ人の細やかさ、相手を思いやる心や礼儀、気持ちの優しさに驚いた。また、それに加え、松山サクラメント姉妹都市協会の人たちの気配りやボランティア精神の深さには本当に感謝している。生徒たちは、ホームステイでさらに人の心に触れ、その心遣いや言葉、活動の一つ一つに感謝の気持ちをもつたものと思う。

今回の海外派遣を通じて、生徒たちは、積極的に行動することの大切さや、時間・マナーを守ることで、自分の持ち物を管理すること等を身をもって感じ取ったと思う。そして、それらをこれからの生活にも生かしていくことができることを確信している。

今回の派遣が無事故で大きな成果を挙げて終了できたことに対し、今回の海外派遣に関わっていた全体的な方々に深く感謝したい。

次世代を担う国際人へ

松山市立椿中学校 教諭 河原 英司

私は今回の研修で、二十数年ぶりにアメリカの土地を踏みました。広大な土地、人々の自由な雰囲気、様々な人種、民族が共存する社会など、全てが以前と変わらないように感じました。そんな中、アメリカの農場体験、海岸でのボランティア活動、大リーグ観戦など、今まで経験できなかったことを経験させていただきました。特に、臨場感のあるスタジアムでプレーする大

リーグの試合は、その迫力に圧倒されました。しかし、私が今回の研修で最も印象に残っていることは、生徒たちの姿です。たった三日間という短いホームステイではありましたが、その前後とでは、生徒たちの様子は大きく変わりました。ホームステイの前は、困ったことがあったときには、私たちが引率の教師等に助けを求めていた生徒が、ホームステイを経験した後では、レストランで何か困ったことが起こったときには、自分で積極的に現地の人に話し掛け、自分で解決しようとしていました。自分の未熟な英語でも、相手に分かってもらえたという経験が、自分に自信をもたせたのだと思います。十四、十五歳という年齢で、外国を自分の肌で感じられたことは、生徒たちの今後の人生に大きな影響を与えることは、間違いありません。私は、この研修に参加した生徒たちが、この貴重な経験を生かし、今後国際的に活躍する大人に成長して行くことを願わずにはいられません。

海外派遣を終えて

松山市立道後中学校 教諭 中川 美保

「英語の先生になりたい」中学生2年生の夏、サンフランシスコでホームステイをした後に抱いた夢です。まさか、夢を叶えてもう一度アメリカへ行くなんて思ってもいませんでした。今回の研修で1番印象に残ったことは、アメリカで暮らす人たちは普段の生活の中で、たくさんの人とコミュニケーションを取っていることです。例えば、スーパーマーケットのレジで精算をする時に、必ず「How are you?」とたずねられ、会話をしました。日常生活の至る所に会話が生まれ、そこから人々がつながっているように感じました。

また、アメリカに出ると日本の良さも実感できました。Welcome party でホストファミリーの1人が浴衣を着ていた姿を見た時、日本には古くから伝わるものがたくさんあることを再発見しました。きっとホストファミリーの人たちにとっても、生徒との体験を通して文化の違いを感じただけではないと思います。アメリカの良さを感心するだけでなく、日本のことももっと知ってみたいと感じました。

11日間の中で、ホストファミリーと別れる時の一人一人の表情は昔の自分を見ているようになり、深く印象に残りました。出発前からお世話になった方々、現地でお世話していただいた協会やホストファミリーの方々があつたからこそ、私たちは素晴らしい思い出ができました。ありがとうございました。



▲ Welcome Party でいただいたケーキ。ホストファミリーや協会の方々があつたからだと思います。



フライブルク市の市章

最高のホームステイが終わって

松山市立桑原中学校 朝日 響賀

私が、14年の生涯の中で、初めて体験したわくわくドキドキ・ドイツでのホームステイ。この最高の11日間の中で、唯一の心配ごとだったのが、見知らぬ外国人との「コミュニケーション」。まず、フライブルクに着いてホストファミリーとの初めての対面。私は、とても緊張してしま...



▲ホストファミリーとの交流

日本に帰ってからも、ファミリーやネレとはインターネット・Eメールで連絡を取り合っています。ネレとはなんと日本語で・・・。今度、ネレを日本に招待し、松山の街を案内したいです。また、私も英...

異国の地の十日間

愛光中学校 伊野木 佑斗

私は今回の約10日間の海外派遣を通じて数多のことを学んだ。そして、異国の地にて日本との差異を強く感じた。一つは、ドイツの国民の主な移動方法は自動車であるということだ。ベンツ、BMWとドイツ製の高級車が思い浮かぶ中、環境に配慮してなのかドイツの国民の約半数は車を所有していないというから驚きだ。環境といえばドイツの市街地を歩いていると、一見中世の街並みを残した普通の街に見えるが、注意深く見回すと多くのソーラーパネルが設置されていることに気付く。このような国民の意識の高さもドイツがエコ先進国と呼ばれる所以であろう。



▲ファミリーとの楽しい一日

最後にこのような機会を与えて下さった関係者各位にお礼申し上げます。本当にありがとうございます。本当にありがとうございました。

『出会えて、良かった!!』

松山市立城西中学校 今井 来亜



▲ファミリーとの楽しい一日

11日間の海外派遣は、あっという間に過ぎてしまいました。一日一日がとても充実し、貴重な時間となりました。その中でも一番の思い出はホームステイです。ホストファミリーとの集合場所に着いたとき、誰もいなかったのですが、緊張感がわきました。ド、みんなのホストファミリーが次々と迎えに来て、緊張してお腹が痛くなったことは、今ではいい思い出です。私の...

大好き♡フライブルク

愛媛県立松山西中等教育学校 奥野 佳奈枝

ついにフライブルク到着！ホームステイが始まります。とても楽しみにしていた私ですが、やはり少し不安になってきました。そんな中、パートナーとの初対面です。名前はアレクサンドラといって年は一つ上です。ホストファミリーはとても明るく親切で、私はせつ々のいい機会を無駄にしないためにも「オー」や「エイ」などオーバーリアクション＆ハイテンションで頑張りました(笑)。ホームステイは私の想像とは違っていました。日本と同じように玄関で靴を脱いだり(靴をはいて生活するとは思っていません)、毎晩シャワーを浴びた(シャワーは朝浴びるものかと思っていました)。でも、私以外の人は毎日シャワーを浴びていなかった事、朝ご飯の時にTVを見ないで、音楽を聴きながら食べた事、週末はみんな起きるのが遅かった事、などなど日本の生活と同じだったり違ったりした所がありました。週末はホストファミリーとその友達の家と一緒に折り紙をしたり、ドイツのゲームをしたり、公園に行って自然に触れられたりしました。さらにみんな仲良くなったので良かったです。最終日にはみんなにひやむぎをこそうしました。ホストファミリーはお着にも初挑戦です！みんなを落としたりながらも頑張って使っていて、とても盛り上がりました。最初のとても不安だった気持ちも、最後は嘘のように無くなり、本当にかけがえのない時間を過ごすことができました。こんな私をあたたかく迎えてくれたホストファミリー、その友達の家、そして添乗員さん、関係者の方々に感謝です。今回の体験は一生の宝物です。そしてこれから活動にも生かしていきたいです！ドイツ最高！ ☆ Danke schön ☆

松山市立南第二中学校 小椋 響子
最初、私はドイツへ行く事が楽しみではなかったけれど不安でした。けれどドイツに着いて、みんな優しくしてとても親切だったので、不安が少し和らいだ気がしました。しかし私が一番不安だったのは、何といてもホームステイです。ホストファミリーを待っている時は、メールを交換したけれど顔も知らないし、英語もあまり話せないのにどうしたら良いかと考えていました。だけど、すごく明るく私を迎えてくれてすごくうれしかったです。でも心配していた言葉の壁があり、まだ不安は無くなってはいませんでした。しかし、私が持つていった折り紙をホストファミリーのヘレナと一緒にしたら、とても喜んでくれて仲良くなる事が出来ました。その時、言葉は仲良くなる事に関係しないのだと思える様になりました。休日には、黒い森につれて行ってもいいました。絶景で、一度聞いた事はあったけれど実際に見てみるとすごい迫力でした。ポートにヘレナ達と乗り、多くの景色を見る事が出来てうれしかったです。この日はいつもよりたくさんのお土産が作れた一日となりました。ホストファミリーとサヨナラをする時、ヘレナとハグをして別れました。たくさんの方が私達を見送ってくれて、お別れは悲しかったけれどうれしかったです。また、これからもメールなどで交流を続けて行きたいと思っています。ホームステイなどの素晴らしい機会を与えて頂き本当に感謝しています。ドイツで学んだ事、これからの生活に活かしていきたいです。

私のフライブルク

松山市立桑原中学校 金井 由季乃

私たちドイツ班は、ドイツのアウトスブルクとフライブルク、オーストリアのインスブルクの3都市に行ってきました。私が今回の派遣を通じて学んだ一番の事、それは、言葉が通じなくてもちゃんと「分かるある」という事です。私は、ホームステイで2つのお宅にお世話になりました。まず最初にお世話になったのは、「ニクラス・ヘツァー」君のお宅です。彼の家に泊まったのは1泊だけでしたが、色々な所を案内してくれたり、彼のお姉さんが働いているパン屋に行ったりと、とても楽しかったです。次にお世話になったのは、メリッサ・トウミナローちゃんのお宅です。フライブルクの街で、彼女と一緒に買い物したり、大聖堂の前で開かれる市場を見たりしました。日曜日には、彼女と彼女の弟、お母さんと一緒にボウリングをした後、「黒い森」に行きました。黒い森はすごく寒かったけれど、その湖はとても美しく、ニクラスもメリッ...



▲ヘレナと一緒に街角で

楽しかったホームステイ
松山市立南第二中学校 小椋 響子
最初、私はドイツへ行く事が楽しみではなかったけれど不安でした。けれどドイツに着いて、みんな優しくしてとても親切だったので、不安が少し和らいだ気がしました。しかし私が一番不安だったのは、何といてもホームステイです。ホストファミリーを待っている時は、メールを交換したけれど顔も知らないし、英語もあまり話せないのにどうしたら良いかと考えていました。だけど、すごく明るく私を迎えてくれてすごくうれしかったです。でも心配していた言葉の壁があり、まだ不安は無くなってはいませんでした。しかし、私が持つていった折り紙をホストファミリーのヘレナと一緒にしたら、とても喜んでくれて仲良くなる事が出来ました。その時、言葉は仲良くなる事に関係しないのだと思える様になりました。休日には、黒い森につれて行ってもいいました。絶景で、一度聞いた事はあったけれど実際に見てみるとすごい迫力でした。ポートにヘレナ達と乗り、多くの景色を見る事が出来てうれしかったです。この日はいつもよりたくさんのお土産が作れた一日となりました。ホストファミリーとサヨナラをする時、ヘレナとハグをして別れました。たくさんの方が私達を見送ってくれて、お別れは悲しかったけれどうれしかったです。また、これからもメールなどで交流を続けて行きたいと思っています。ホームステイなどの素晴らしい機会を与えて頂き本当に感謝しています。ドイツで学んだ事、これからの生活に活かしていきたいです。

思う所の十日間

松山東雲中学校 久保 茉莉花

ドイツで過ごした十日間はあっという間で、私に多くの素晴らしい思い出を残してくれました。中でも一番心に残ったのはホームステイです。ホームステイ初日、パートナーの家へ向かう車中で、初めて英語で会話をしました。大変緊張しましたが、時間が経つにつれて緊張もほぐれ、打ち解けることができました。また、ブリンクマン家のみなさんは、とても明るく優しい人達で、私のために日本語の単語帳を買ってくれたり、「Danke」や「Guten Morgen」などの言葉を教えてくれたり、私も「いただきます」や「ありがとう」などの言葉を覚えてあげました。休日にはジョッキングに行き、お土産のおみやげを教えるもったり、買ってくださったりしました。その中でもパートナーのキムが買ってくれた、「Germany」と書いてあるクマのストラップが一番のお気に入りです。また、夜には日本とドイツの雑誌を見比べたり、キムのパソコンを使って、アイドルや女優をそれぞれ紹介していました。そしてお別れの日、お別れするのは寂しかったけどキムが、「次は、私が日本に行くから!!」と笑顔で言ってくれたので、寂しさもやわらぎました。私はこのホームステイで、文化や言語は違っても、心は通じ合うんだと改めて感じました。この十日間の思い出は、私の一生の宝物です。最後に、この海外派遣でお世話になった先生方・派遣親・そして私の第二の家族、ブリンクマン家のみなさんに心から感謝します。 Danke!



▲ブリンクマン家のみなさんと★

私の一生の宝物です。最後に、この海外派遣でお世話になった先生方・派遣親・そして私の第二の家族、ブリンクマン家のみなさんに心から感謝します。 Danke!

挑戦の連続

済美平成中等教育学校 古賀 葉奈子

私はこの海外派遣で初めて海外に行きました。伝えることの大切さをよく学べたと思います。伝えることはホームステイです。周りに日本人がいないので自分の意思は全てジェスチャーや英語で伝えなければなりません。私は最初、全然伝えられず、ただ黙っているだけで、でもパートナーのレベッカが一生懸命話しかけてくれたり、お母さんが色々な所に連れて行ってきて、交流していく内にだんだん「私は何がしたいのか」ということを伝えられるようになりました。それから、ホームステイを思いっきり楽しむことができました。レベッカの友達との誕生日パーティーに行ったり、街に二人で買い物に行ったり、とても仲良く出来ました。これは派遣されて、日本語が使えないという環境に置かれてこそ、挑戦できたことだと思います。次に、インスブルク市の観光局の方への英語のあいさつです。これはドイツ班を代表してのスピーチだったのでとても緊張しましたが、きちんと私の英語が伝わったか不安ではなかった。終わってみるとちゃんと伝わっていたように思いました。それを覚えています。そして様々な派遣中のプログラムを通じて友達も増えました。アルプスの農家訪問で一緒にジャムを作ったり、フライブルクの学校に行ったり、たくさんのお会いがありました。国は違っても、とても楽しい時間を過ごすことができました。今「また会いたい」と思えることは、以前の自分と比べるとすごいことです。そして一緒に過ごした派遣生とも、更に仲良くなれてとても良かったです。



▲アルプスの農家体験の時に写真。交流した地元の子達と。

今回の海外派遣で、わたしは一回り成長できたと思います。派遣中に学んだことをこれからの国際交流活動に生かせるように頑張りたいです。

ダンケゲシエン!

松山市立桑原中学校 篠崎 恵

今回の海外派遣では、ドイツの人たちの温かさをもっと感じることができました。フライブルクのホームステイ先では、キアラという18歳の子が私のホストファミリーでした。歳も離れていて身長も大きくなって、18歳だけでも大人の人間みです。最初は「話が合うかな・・・」と、とても心配でした。でもキアラは、英語が下手な私にもわかるようにとてゆっくり話してくれたり、「You like it?」という聞きかたで話してくれたり、休み日にはお祭りに連れて行ってくれたりしました。お祭りというのは、カウボーイという町の、テンツェルフェストという、民族衣装でパレードを行う祭りでした。日本では絶対に見られない壮大なお祭りで、「ヨーロッパに来たんだな」と特に実感しました。私が楽しそうにお祭りを見ていると、キアラも喜んでくれました。家では一緒にビデオを見たりしました。私のために、英語の字幕のビデオを持ってきてくれました。英語のビデオでも、ドイツ人は普通に見れるんだなと思えました。日本人は、英語の吹き替えや字幕になっていない映画なんて、そんなに見ませんよね。今思えばホームステイ生活もあっという間で、別れの日がすぐ来てしまいました。もう少し長くキアラの家にいたかったです。最後は「ダンケゲシエン」と何度も言ってお別れしました。

ドイツに行っても、何度か数え切れないほど「ダンケゲシエン」を言いました。日本人相手でも思わず言ってしまうほどです。ドイツの...

僕 Another sky

人は、思ったことは率直に話すと、表情も豊かです。私もドイツ人やオーストリア人と交流して、少しは素直に話せるようになりました。海外派遣を体験して、本当に良かったなと思います。今でも派遣中のことを思い出すと、ドイツ、オーストリアに住みたいなと思うほどです。いつかまたキアラ達にもう一度会いに行きたいです。

愛媛大学教育学部附属中学校 下岡 和也

長かった一学期が終わり、休みももなく出発の日をむかえた、今回の派遣。
まず、ドイツの空港に着いて、ドイツの人たちの背の高さを丸くした。たつた5人の男子派遣生の中で、上から数えたら3番、下から数えても3番という僕と、ドイツの青年とは頭1.15個分ぐらいが違った(笑)。
なんかやんやでドイツでの1日目過ぎ、2日目、バスで揺られること約2時間、だが僕にはその2時間がとても長く感じられた。緊張で胸の鼓動がどんとどんと張り裂けそうになりながら、やっとドイツの空気がかすんで見えた。背が高...かつこよすぎる...僕は、へたな英語でいさつとすると、そのまま、パートナーの家へと向かった。この日は長かった...いろいろと...ドイツは10時ぐらいまで空が明るく、それまでずっとバスやサッカをしていた。



▲ホストファミリーと、日本料理店にて。

と格好いいお祖父さん、そして初日しか会えなかったが、僕を安心させようとして話しかけてくれたお父さんのMax。Simonとは特に仲よくなり、将来の夢などを語り合った。言葉の壁は結構分厚かったが、楽しい4日間が過ぎたと思う。
特に最終日の夜、Simon、お母さん、お祖父さんと日本料理店へ行った時には、自分の親戚を訪ねているように思え、来年もまた会いに来れるだろうと感じた。実際、翌日別れる際には「See you next summer!」と言った。

貴重な経験

愛媛県立松山西中等教育学校 得本 実優

私にとって初めての海外。見るものすべてが新鮮で、松山に帰ってきた今でも、その光景がよみがえってきます。
私が一番に残っていることは、ホームステイで、私に一番対面する時、とても緊張していました。しかしホストファミリーの皆さんが笑顔で私を迎えてくれたおかげで、とても安心することができました。また、私は初め自分の言いたいことがうまく伝えられなかったり、話していることがよく分からなかったりして落ち込んでいました。でも、交流していくうちに、本当のコミュニケーションは気持ちの通じ合いだということがわかり、自分の気持ちを伝えられるようになっていきました。一緒にジャムを作ったり、ドイツの古くからの遊びを教わってもらったりして、いくうちに、自然と仲良くなることができ、とても嬉しかったです。また、自分の国や生活のことをお互いに伝えあうことができた。お別れは本当に悲しかったけれど、ホストファミリーの人達と過ごした日々はとても貴重なもので、一生の宝物になりました。

初めての海外、12時間という長い長いフライト

愛媛県立松山西中等教育学校 高内 大嗣

初めての海外。12時間という長い長いフライトを終えて、やっとたどり着いたミュンヘン。飛行機から降りてふと思ったこと、「日本人がいない」。当たり前のことながら少し不自然に感じた。そしてもう一つ...。「みんなでない」。とにかくみんな身長が高いのに、がたいも良い人がたくさんいた。何じゃかんじゃ言っているうちに、警察のウジャウジャいる空港を出て、現地初めての夕食。予想通り味が濃い！食べられないことはないけれど、やっぱり...。(汗)といったところだった。そして一日、また一日とすぎ、アウグスブルクの見学を終えてまた移動。しかし、今度の移動は今までは少しがたがた持った。なぜなら、待ちに待ったホームステイが始まるよとしていたからだ。フライブルクに着くとレオンが笑顔で迎えてくれた。レオンは様々なことを紹介してくれたのだが、1日目は緊張して、うなずいただけだった。ホームステイ2日目、3日目はレオンの祖父、母と共にボデン湖という湖へ行った。これもでかい。そこでアイスを食べたり、展望台に登ったり、レストランで食事したり。でも楽しい時間はつかのま、すぐに夜が来て4日目、この日は学校見学でゲーテギムナジウムを見学。その後市街を見学、ホッパドックの購入体験。

初めの海外。12時間という長い長いフライトを終えて、やっとたどり着いたミュンヘン。飛行機から降りてふと思ったこと、「日本人がいない」。当たり前のことながら少し不自然に感じた。そしてもう一つ...。「みんなでない」。とにかくみんな身長が高いのに、がたいも良い人がたくさんいた。何じゃかんじゃ言っているうちに、警察のウジャウジャいる空港を出て、現地初めての夕食。予想通り味が濃い！食べられないことはないけれど、やっぱり...。(汗)といったところだった。そして一日、また一日とすぎ、アウグスブルクの見学を終えてまた移動。しかし、今度の移動は今までは少しがたがた持った。なぜなら、待ちに待ったホームステイが始まるよとしていたからだ。フライブルクに着くとレオンが笑顔で迎えてくれた。レオンは様々なことを紹介してくれたのだが、1日目は緊張して、うなずいただけだった。ホームステイ2日目、3日目はレオンの祖父、母と共にボデン湖という湖へ行った。これもでかい。そこでアイスを食べたり、展望台に登ったり、レストランで食事したり。でも楽しい時間はつかのま、すぐに夜が来て4日目、この日は学校見学でゲーテギムナジウムを見学。その後市街を見学、ホッパドックの購入体験。



▲3日目の友達と、パートナーの大きな感謝の気持ちを忘れず生活していく。また、この経験を少しでも活かせるように、今後国際交流活動に積極的に参加していきたいです。

派遣で学んだこと

松山市立中島中学校 豊田 辰方

ドイツに対する僕の今までのイメージは、中世の街並みが残る美しい街で、環境問題への取り組みが盛んというものでした。しかし、一言で簡単に言えるものではないということを感じました。
僕が本物だと思っていた町並みは、実は復元されたものなんです。第二次世界大戦時、フライブルク市は数十分の爆撃で、街の約八割が焼け野原になったそうです。しかし、自分たちの手で昔の素晴らしい街並みを取り戻そうという、市民の強い思いによって、町並みは復元されたそうです。どれだ



▲スタジアムの屋上から！

自分の街が好きで、誇りを持っているか知り、感動しました。
環境問題への取り組みは、やはり日本より優れていると思います。太陽光発電が普及しており、たくさんの家の屋根にソーラーパネルが取り付けられています。また、高速道路のそばや山の上には何台も風車が並び、再生可能エネルギーを多く利用していることに驚きました。自ら率先して政策に取り組んでいるのが素晴らしいと思います。
ホームステイ先では、はじめとても緊張していましたが、ホストファミリーが積極的に話しかけてくれたり、親切に教えてくれたりしたので、とても仲良くなりました。また、フランスまで連れて行ってくれたことは、大きな思い出となりました。
今回の派遣事業を通して、文化や環境問題への取り組みなど、本当はたくさん学ぶことができました。派遣事業に関わってくださった方々に感謝し、これから生かしていきたいです。

初めてのホームステイ

松山市立旭中学校 中村 まみ

私が、今回の派遣で最も不安で、同時にすごく楽しみにしていたプログラムがホームステイです。パスカルは出発前に、いち早くメールを送ってくれて、とても親切な人だということがよく分かりました。ただ、相手の堪能な英語についていくのが大変で、出発前から自分の英語力を思い知らされました。ホストファミリーとの対面では、他のパートナーは皆、家族同伴で来たのに、彼は一人で迎えてくれました。今の思えばとても優しい行動だったのですが、その時の私は余裕がなかったのと、彼があまりにも年上に見えたのとで、感激するどころか反対に怯んでしまいました。「あなたは今幸せですか？」と聞かれ、「少し心配です」と答えてしまったのも、緊張していたからかと思えます。でも、日本のお土産を渡すときには引きついていた笑顔も、自然と本物の笑顔に変わり、自分は本当に幸せだと思えました。心配していた他の派遣生と会えない日々も、パスカルとシェヴァルツヴァルトに行ったり、家族と山小屋に行ったりと、とても楽しく過ごしました。ホストファミリーと過ごした5日間は、会う前は「5日間も一緒に過ごすなんて」と感じていた5日間になっていきました。言葉が通じなくても、大切なことをたくさん学びました。次に海外旅行に行くことがあったら、また第二の家族がいるドイツがいいです。



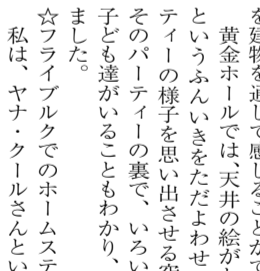
▲アニケの家で

置いてあり、とても優しく私を迎えてくれて嬉しかったです。
2日目は3日目はアニケとの自由行動で、この自由行動のときにたくさんコミュニケーションをとるチャンスだと思いき、不安はありましたが積極的に英語で話しかけました。事前に準備していたアニケへの質問や自己紹介、家族についての紹介、日本についてなど、色々教えてあげると、アニケは驚きながらもたくさん質問をしてくれて、盛り上がりました。この時、改めて自分から積極的に話すことの大切さを実感しました。
また、ホストファミリーと教会や、黒い森に位置する「三湖」へ行き、日本ではあまり経験することのないキリスト教のミサにも参加しました。
たくさんの木々に囲まれ、建物の窓には鉢植えの花がたくさん飾られていて、美しい緑豊かなドイツの風景は見事でした。5日間のホームステイはあっという間で、お別れの時、とても悲しかったです。この海外派遣を通して、異国の文化を実際に体験してみたいという思い、日本の文化の良さに気づくことができ、自分自身の視野を広げ、今までの自分とは違う考えを持つようになりました。この貴重な11日間の海外派遣での経験を生かし、将来は国際的に活躍できる人になりたいです。

心に残る海外派遣

松山市立旭中学校 畠山 智

☆オーストリア・ドイツの見学
一番私の心に残ったことは、インスブルックの王宮に入ったこと、アウグスブルクの黄金ホールに入ったこと。
王宮では、貴族がどのような生活をして、その生活がどのように変わっていったのか、ということがよく分かりました。そして、一人一人の性格などを建物を通じて感じることができました。
☆ヨーロッパ
黄金ホールでは、天井の絵がとても「ヨーロッパ」といふふんいきをただよわせていて、当時のパートナーの様子を思い出させる空間でした。そして、そのパートナーの裏で、いろいろな仕事をしていた子ども達がいることもわかり、すごいなとおもいました。
☆フライブルクでのホームステイ
私は、ヤナ・クルさんという15歳の女の子の家にホームステイをしました。
1日目は、とても緊張してあまり話さず、2日目には家族と一緒に丘に登り、フライブルクの景色を見て、いろいろな会話ができてとても面白かったです。3日目は、ヤナの友



▲パートナーのパスカルと

達と一緒に滝を見に行ったり、とても長いローラーコースターに乗ったりして、他のドイツの方としゃべることができました。4日目は、都合上、授業に参加することはできませんでしたが、ヤナの妹と一緒にゲームをして遊んだりして、家族とも仲良くなりました。5日目は、フライブルクのエゴステーションに行き、ドイツがどのようなエゴをしているのかを見ることができ、とてもいい経験になりました。

ホームステイ

松山市立三津浜中学校 庭瀬 喜帆

自分自身の考え方や行動に変化が現れた11日間の海外派遣、一番心に残っていることは、一番楽しみにしていたホームステイです。
私のパートナー、15歳のアニケの家に着くとベッド



この海外派遣で最も私の心に残っていることは、やはりフライブルクでのホームステイです。ホストファミリーとの待ち合わせの場所に行くまでの車内、みんな不安な気持ちがどんどん増してきて、「緊張してきた」と言い合っていました。ホストファミリーの車に乗って家まで行く間や、その日の夜の孤独や不安と比べれば、みんな一緒にいたときの風景は見事でした。5日間のホームステイはあっという間で、お別れの時、とても悲しかったです。この海外派遣を通して、異国の文化を実際に体験してみたいという思い、日本の文化の良さに気づくことができ、自分自身の視野を広げ、今までの自分とは違う考えを持つようになりました。この貴重な11日間の海外派遣での経験を生かし、将来は国際的に活躍できる人になりたいです。

研修を通して感じたこと

愛媛県立松山西中等教育学校 原田 真由

この海外派遣で最も私の心に残っていることは、やはりフライブルクでのホームステイです。ホストファミリーとの待ち合わせの場所に行くまでの車内、みんな不安な気持ちがどんどん増してきて、「緊張してきた」と言い合っていました。ホストファミリーの車に乗って家まで行く間や、その日の夜の孤独や不安と比べれば、みんな一緒にいたときの風景は見事でした。5日間のホームステイはあっという間で、お別れの時、とても悲しかったです。この海外派遣を通して、異国の文化を実際に体験してみたいという思い、日本の文化の良さに気づくことができ、自分自身の視野を広げ、今までの自分とは違う考えを持つようになりました。この貴重な11日間の海外派遣での経験を生かし、将来は国際的に活躍できる人になりたいです。



は、是非ドイツ語も勉強して、もう一度ドイツ・オーストリアを訪れたいと思います。最後に、私にこのような機会を与えてくださった全ての人に感謝します。そして、共に海外での十一日間を過ごした十七人の派遣生のみならず、ありがとう☆

ドイツ班 引率の先生方

海外派遣を振り返って

団長 松山市立椿中学校
校長 露口 謙

「なでしこ世界一」
サッカー女子ワールドカップドイツ大会で、優勝候補のドイツやアメリカを破った快挙に、日本国内は大いに沸いた。ドイツへ出発するわが三日前の出来事であった。

まだ、その余韻の残るドイツの地で、私たちは、ホストファミリーの皆さんやフライブルク市の方々と温かいもてなしを受けた。市庁舎での表敬訪問では、東日本大地震に対するドイツからの支援に、心よりお礼を申し上げた。話題が大きく盛り上がったのは、もちろん、サッカー女子W杯のことであった。歴史、文化、生活の違いや言葉の壁により、ややとまどいがあつたものの、姉妹都市フライブルク市との交流・親善は意義深いものとなった。

次の訪問地オーストリアのインスブルックでは、農家の青少年たちとの交流、町中の英会話実践、歴史のある街並の見学など、雄大な自然の中で充実した研修を積み重ねることができた。



▲市役所表敬訪問時の全体写真

この十一日間で、派遣生十八名は、ずいぶん成長したように思う。自分の目で見て、直接肌で感じたことは「一生の宝物」となったはずである。その貴重な経験をこれから人の人生に生かす、「世のため人のために役に立つ人」になっ

人と人の繋がりが

松山市立雄新中学校 教諭 鳥山 寿美

遠いドイツに向けての海外派遣ということ、期待よりも大きな不安を抱えての出発であった。歴史や文化を学ぶ場、ホームステイ、多くの体験活動、英語研修と充実した、そしてあつという間の11日間であった。今の時代ですから風景や建造物の映像は、インターネットなどでも簡単に見ることが出来ます。しかし、実際に目で見て、耳で聞き、多くの人と触れ合う中で、

今の日本に足りないもの、日本が残さなければいけない大切なものを生徒も再認識できたのではないかと感じています。ホームステイ先の家族とガイドさん、チロルの農家の人たち、インスブルックでのガイドさんとの別れに二度涙する自分に酔いながら、今回の派遣で得たことを、経験していない生徒にも一人でも多く伝えていきたいと計画中です。大きな国際的視野で物事を捉える事、自分の可能性にかけてどんな新しいことにチャレンジしてはいいですか。今回の派遣では18人全員がすべての研修をこなして元気に帰って来ることができ、本当によかったと思います。それが、これが、これからの学校生活や自分の生き方を考える大きな経験になったはず。最後にお世話になったすべての人に感謝を申し上げます。ありがとうございました。Viel Spaß!



松山市立城西中学校 教諭 木原 理絵

目指せ「国際人」!

ちょうど10年前の夏、今回の派遣生と同じ言葉では言い表せないほどの満足感に包まれていた14歳の私は、地元の中学生海外派遣団の一員としてオーストリアに行き、ホームステイをした。そのホストファミリーとは、10年間途絶えることなく連絡を取り合い、何度も会いに行つては滞在し、すっかり第2の家族になつていく。そのホストファミリーが初めて会つたときから私に言い続けている言葉がある。「国際人になりなさい」

この研修中、現地の人たちの話の中にも何回か出てきた「国際人」という言葉。派遣生たちはどのように受け止めたのだろうか。ヨーロッパの街を歩いて大きな歴史を感じ、ホームステイを通して文化の違いを痛感した派遣生だからこそできることは何だろうか。日本を一歩外に出ると、日本の良さや問題点を再認識できるとよく言われる。日本にいると当たり前に見えてしまつてしまふことも多く気付いた研修だったと思う。その小さな発見を大切にしたい。そして何より、出会ったホストファミリーや友達と絶えず関係を築いていってほしいと願う。場所は世界であれ日本であれ、今回の派遣生18人が、これから松山市の誇る「国際人」に成長してくれることを期待している。



最後に、この研修で出会ったすべての方々、支えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。またどこかで再会できることを心から楽しみにしています。Viel Spaß!

韓国班



平澤市のマーク

派遣 みんな、FRIENDS

松山市立久谷中学校 丹生谷 楓帆

私にとって、今回の派遣は最高の思い出になりました!! 最初に、韓国の中・高校生、中国の高校生、秋田県の高中生と出会ったとき、みんな年上だから緊張して何も話さずじまつてしまいました。一番声をかけてくれたのが、韓国の高中生でした。だんだんみんなとの会話もできてきました。そこからの体験はとても充実したものでした。そこからの私の一番の思い出は、料理作りとローリングペーパーの作成です。私は韓国の餃子をつくりました。私が何をやるのか困っていた時も、友達も助けてくれました。しかし、その時の言葉は韓国語...でも、ジェスチャーで私は理解することができました。その時は私は、言葉が通じなくても言葉以外の表現で通じると改められて感動することができました。ローリングペーパーは、一人一枚の紙にみんなからのメッセージを書いてもらうというものでした。自分で頼みに行かないといけません。しかし、私は、自然と自分から頼みに行っていました。相手も笑顔で「OK」と言ってくれました。とっても短い間でしたが、「みんな友達」と言える存在になつていました。



▲韓国で料理 パートナーと

今回、この派遣では日本では学べない、たくさんいる、たかさんができて良かったです!!

I love Korea

松山市立余土中学校 平谷 咲貴

7月24日からの約1週間の韓国訪問は、とても充実してあつたという間に過ぎました。私のパートナーの名前は「ジョンヒ」という女の子。2日目の民俗遊び交流では、遊び方が全く分かりませんでした。ジョンヒが英語で丁寧に説明してくれました。それから、とても仲良くなること



松山市立立木中学校 藤本 和志

よきパートナー

僕にとつても何もかも初めての経験で、期待と不安一杯でしたが、今回の活動は、楽しい事ばかりでした。ソングジョンというパートナーに出会い、彼と過ごした2週間は、一生忘れられないことのない大切な思い出です。英語で会話できるかどうか心配していましたが、韓国の子供は小学一年生の時から英語を習っているらしく、派遣の時からは、自然とくれたので、松山の受け入れの際には、自然と僕も英語で上手に会話ができるようになっていきました。彼の部屋で上手に会話のできたら、自然とベルが高く、日本とは英語に対する取り組みが全く違うことに驚きました。

日本に一番近い韓国ですが、文化や言葉も違うため、上手くコミュニケーションをとれるかどうか心配でした。しかし、楽しみにしていたホームステイ受け入れでは、ショッピング、松山城散策、プールのウォータースライダー、花火、温泉、日本食バイキングをして、楽し過ぎて過ごすことができました。コムズでは、たこ焼き、手巻き寿司を一緒に作り、交流を図ることができました。

このような貴重な体験をさせていたいただいて、とても感謝しています。海外派遣業務に関わっていただいた皆さん、ありがとうございます。これからもっと語学力を



▲松山城散策

磨き、チャレンジプロジェクトにも積極的に参加し、来年は、ドイツ班の派遣生として、参加してみたいです。もちろん、ジョンヒとのメールでの交流は続けたいと思います。

平澤市主催2011 韓中日青少年国際交流キャンプ

松山市立道後中学校 三好 鎮平

7月24日 松山空港から仁川空港に着いた私たちは、バスで平澤へ移動。

25日 朝食を済ませた私たちは平澤市青少年センターへ。平澤のパートナーと合流・交流



そしてこの日から2日間のホームステイとなった。私のパートナーは、イ・スウという名で私より1つ年上の平澤中学校の3年生。平澤の中学生は自分から進んで荷物を運ぶ。彼の家は14階のセキユリテイで守られたアパートだ。夕飯に辛い物は出なかった。

26日 この日の雨がどれだけ強かったか今でも覚えている。センターに集合した私たちはムボンサンへ。陶磁器の絵付けが終わると地域踏査だったが、猛烈な雨のため少々変更があった。夕飯は辛ラーメンと、サンチュだった。

27日 ホームステイを終え、全ての荷物を持ちセンターに集合。韓国料理を作つて食べ、寄せ書きを作り、お別れ会の後、夕飯を食べ、宿所へ移動。

28日 今日雨が...と思ったら、「ロッテワールドに屋内もある。」とのこと。屋内だけでも一日中遊ぶことができました。

29日 空港で軽食事を済ませた私たちは、仁川空港から松山空港へ飛び立った。

こうして、私たちは無事、ニッポンに帰ることができました。

僕たちみんな地球人

松山市立道後中学校 八木 駿

平成23年7月24日、僕は初めての外国の空港に降りた。父が言うには、生まれてすぐアメリカに行ったことだが、もちろん全然覚えていないから、今回が本格的に初めての海外体験だ。韓国に行く前から研修を積み重ね、ようやくとどろき着いた空港は何もかもきれいに見えた。



ホームステイ

松山市立道後中学校 吉田 健太

派遣で一番楽しみにしていたホームステイの日が来た。しかし、これで一回仲間と別れ、全てを一人で行かなければならなくなり、不安でいっぱいになった。そして迎えに来てくれたパートナーのお母さんとの対面でも、簡単なあいさつしかできなかった。車に乗ると、大きな言葉の壁と英語のレベルの違いが僕の前には立ち上がった。基本的な韓国語は覚え、あとは英語で覚悟していたが、発音から単語数まで全てにおいて僕は負けていた。自分から会話を待つこともできず、相手から話しかけてくれるのを待つことしかできなかった。パートナーの家につくと、お父さんと妹が迎えてくれた。いろいろと話しかけてくれてうれしかったが、その分、意味を知らない単語の連続も多かった。それに中学1年生の妹にも英語で話しかけていたのでショックだった。僕は韓国に行ったら買いたい本があった。英語で言っても通じず、覚えたての韓国語で言ってみると通じて、ちゃんと本も買えたときはうれしかった。僕はこの派遣で悔しい思いもしたが、自分から発



言する大切さと失敗を恐れず積極的に交流する大切さを学んだ。支えてくださった国際交流センターのみなさんと先生方に感謝し、学んだことを日本の生活にも活かしていきたい。

松山市立鴨川中学校 安倍 志奈

私は11人の仲間と共に韓国へ行き、色々な体験をして無事日本に帰って来る事が出来ました。

久しぶりに松山でパートナーと再会し、会えた喜びとまた別れなくてはならないという不安が入り混じる中、浴衣の着付け体験やボウリング、料理作り体験、中島等色々なプログラムを行いました。

私も平澤でパートナーの家にホームステイさせて頂いた時、あまり韓国の生活や文化に触れることが出来なかったため、パートナーには沢山日本の文化を伝えようと頑張りました。



▲日本にて太鼓の連打

みんなでホームパーティー

松山市立道後中学校 岡 あづさ

私の韓国への派遣が決まった時、卓球部のみんなはとても喜んでくれました。そして、松山で受け入れがある。と話したら、私たちが交流したい。と言ってくれたので、8月6日、7日のホームステイで、私は卓球部のみんなも誘ってホームパーティーをしました。

最初は卓球部のみんなから、私のパートナーのミンジさんに英語で挨拶をしました。片言の英語で上手くは出来ませんが、ミンジさんは解ってくれました。

楽しかったホームステイ

松山市立南中学校 直野 桜

韓国でのホームステイ体験を終え、松山に帰ってから4日後、その日はやってきました。パートナーのチェウが、松山でのホームステイにやってきました。



▲流しそうめんを楽しんでいる様子

We love 韓国 We love 松山

松山市立鴨川中学校 田房 友菜

平澤でのキャンプでたくさんの方と交流し、パートナーと私の間にも「絆」が生まれました。そして受け入れでは、パートナーや、周りの友達と派遣の時より「絆」が深まりました。

私が受け入れで一番に残っていることは、ホームステイの朝、パートナーの「ジンリユル」と自転車でパンを買いにいったことです。

楽しかったホームステイ

松山市立南中学校 直野 桜

韓国でのホームステイ体験を終え、松山に帰ってから4日後、その日はやってきました。パートナーのチェウが、松山でのホームステイにやってきました。

久しぶりに再会した私たちはすぐにうちとけて、私の家族も合流し、挨拶を済ませると早速、大街道の「お化け屋敷」に向かいました。



▲花火

みんな友達

松山市立南中学校 楢垣 佑奈

松山での受け入れで一番私の心に残っているのは、みんなで中島に行ったことです。この日は、とても天気が良く、思う存分海水浴を楽しむことが出来ました。



松山での受け入れで一番私の心に残っているのは、みんなで中島に行ったことです。

国を越えて文化を通じて、友達の和を深めよう

松山市立余土中学校 森 義晴

今回、派遣に参加できたことは、ほくにとって人生の大きな経験のひとつになりました。

松山での受け入れでは、パートナーをはじめ12人のメンバーと日本文化に触れることができました。

今回のホームステイでは、言葉は通じなくても、実際に体験することによって、お互いの文化や風習を理解できる事が良くわかりました。

中島には12名全員で、一泊二日滞在しました。スイカ割り、海水浴などの体験をしました。

韓国班 引率の先生方

松山市立道南中学校 校長 栗林 安廣

私たちは韓国班は五泊六日という短い期間ではありますが、内容の充実した、貴重な体験学習を行うことができました。

松山からの派遣生12名は、最初は各国の高校生に圧倒されていましたが、徐々にその雰囲気慣れ、のびのびと活動することができました。

松山・平澤中学生相互交流事業を実施していただいた松山国際交流協会の皆様深く感謝いたします。

まつやま中学生海外派遣事業(韓国班)を終えて

松山市立北中学校 教諭 夏井 昭則

今回の韓国(平澤市)海外派遣事業に参加させていただいて感じたことは、韓国のボランティア大学生の計画性・行動力・指導力の優秀さです。

松山からの派遣生12名は、最初は各国の高校生に圧倒されていましたが、徐々にその雰囲気慣れ、のびのびと活動することができました。

松山・平澤中学生相互交流事業を実施していただいた松山国際交流協会の皆様深く感謝いたします。

初めての海外、そして韓国の教育力

松山市立道南中学校 教諭 井上 哲男

初の海外ということで、私自身、緊張の連続でした。また、他校の生徒の引率ということもあり、何もかも初めてのことはありながらも緊張は拍子がかかりました。

韓国滞在4日目の夜8時前に、39度の熱を出した生徒を病院へ搬送ということになりました。

松山市立道南中学校 教諭 井上 哲男

松山での受け入れで一番私の心に残っているのは、みんなで中島に行ったことです。

松山での受け入れで一番私の心に残っているのは、みんなで中島に行ったことです。

松山での受け入れで一番私の心に残っているのは、みんなで中島に行ったことです。

Advertisement for 'We are S.T.A.R. Very Good Friends' featuring a group photo and text about the exchange program.

中学生チャレンジプロジェクト

アメリカ、ドイツ、韓国の姉妹・友好都市に派遣生として行きたくなった皆さんは
→中学生チャレンジプロジェクトに登録をしよう!!

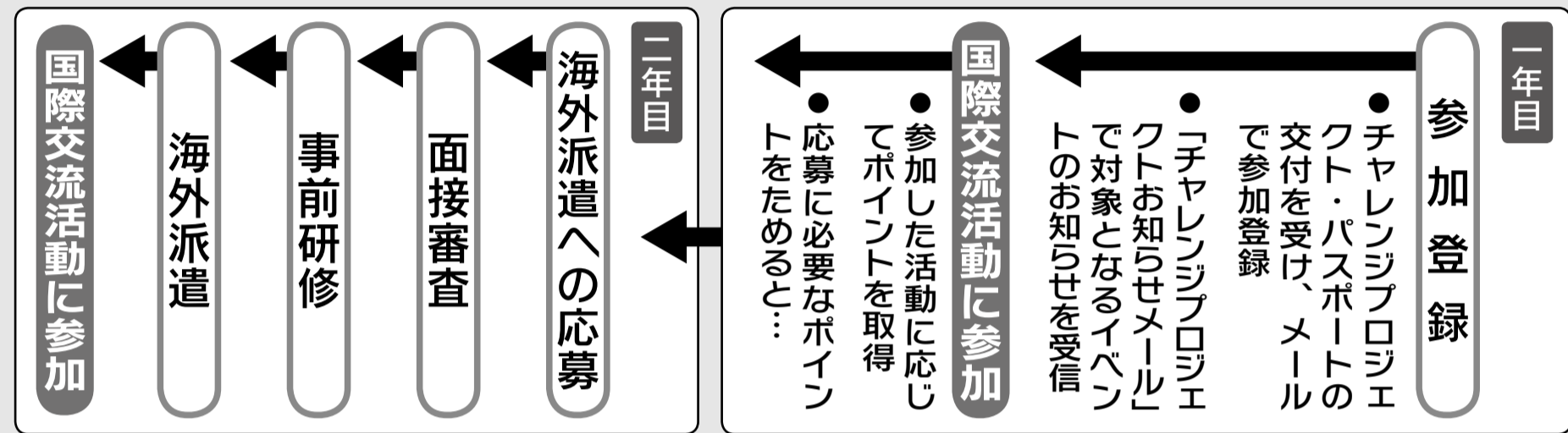


中学生チャレンジプロジェクトとは

プロジェクトに参加できるのは

- ・松山市内の中学校に通う、1年生、2年生
- ・広く世界の国々について興味があり、地域での国際交流活動に参加する意欲のある人

プロジェクトの流れ



★ ポイント対象となる国際交流活動例 ★

地球人まつり

世界各国のブースで文化や料理などを体験できるお祭り



国際交流サロン

市民と外国籍市民とが楽しみながら交流できるイベント



「のぞいてみよう! 国際協力の世界」

国際協力や多文化共生について学べるイベント



ぶどう収穫・交流イベント

姉妹都市フライブルクから贈られたぶどうの収穫を外国籍市民と一緒に体験、楽しく交流します



このほか

まつやま中学生海外派遣報告会

その年の派遣生による報告会

My Matsuyama Family

松山在住の留学生のためのホームビジット&交流プログラム

ホームステイプログラム

ホストファミリーとして、外国人を自宅に受け入れます

etc...

中学生チャレンジプロジェクトへ登録をしたい、詳しく知りたいという方は、まつやま国際交流センターまで

***** まつやま国際交流センターでは、他にも... *****

- ☆ ボランティアのための語学講座(英語、韓国語、中国語)の受講生などを募集しています!!
- ☆ 外国人オタスケマン(困っている外国籍の人をお助けするボランティア)

また、国際交流情報が満載のMICメールニュースを週に1回配信しています。配信希望の方は informic@dokidoki.ne.jp までメールを送ってください。

問い合わせ

まつやま国際交流センター (MIC) 〒790-0003 松山市三番町6丁目4-20 コムズ 1F
TEL: 089-943-2025 FAX: 089-931-2041 E-mail: informic@dokidoki.ne.jp
URL: <http://www.dokidoki.ne.jp/home1/informic/MIC/MICtop.html> まつやま国際交流センター 検索
携帯 URL: <http://www.dokidoki.ne.jp/home1/informic/MIC/mobile/top.html>

